

めざせ「いきいき 明治っ子」

～ はきはき どんどん ぐんぐん ～

<http://www.meiji.jorne.ed.jp/>
E-mail → meiji@jorne.or.jp

11/1 くびき文化祭、 35人で奏でたハーモニー

先日の文化祭に続いて、4・5・6年生がリコーダー奏「ホール・ニュー・ワールド」、合唱「COSMOS」をユートピアくびき希望館で披露しました。学校の文化祭が終わってからも短い期間で更に練習を積み重ねた結果、一段と息の合った演奏をすることができました。トップバッターということで子どもたちはかなり緊張しているようでしたが、心を一つにしたすてきな演奏でした。南川小学校、大養小学校の演奏もとてもすばらしく、大きな感動や刺激をもらうことができました。そして、その後行われた読み聞かせも含め、鑑賞態度もよかったです。



明治っ子のすてきな演奏

また、当日会場では保育園から中学校までの子どもたちや一般の方の作品展示もあり、頸城区の文化のすばらしさを存分に味わうことができました。会場を訪れた人たちは皆同じような感動を味わえたことと思います。改めて頸城区のすばらしさを確認いたしました。この地で活動できることを誇りに思います。



来場者全員で「もみじ」を合唱

この感動を次の活動につなげていけるよう、子どもたちとともに頑張っていきます。ご支援をよろしくお願いたします。

ふるさとの昔話を語り継ぐ

各小学校の演奏の後、ワンダーランドの大越さんによる読み聞かせが行われました。読んでいただいたのは、ふるさとの昔話を後世に語り継いでいくために作られた紙芝居「くびき昔々の物語 大池小池の話」です。大越さんの語りと教育文化グループ長の稲田さんのティンパニによる共演で、とても迫力のある読み聞かせでした。その後、各小学校に紙芝居を寄贈していただき、学校を代表して6年生の吉村優花さんがお礼を述べました。いただいた紙芝居は、図書室で大切に語り継いでいきたいと思ひます。



躰(しつけ)は コミュニケーションの始まり

かつて、家庭での躰は親と子のコミュニケーションを図る大切な手段でした。

躰の内容は、服の着替え、箸の持ち方、食事作法、ひもの結び方、靴の履き方、風呂の入り方、トイレの始末、掃除の仕方、火の扱い、清潔な身だしなみ、あいさつの仕方、家庭内・家庭外の人に対する礼儀、友だち同士の礼儀、謝り方、言葉遣いなど、教えられたことは山ほどありました。そして、その根底には“人に迷惑をかけない”という大事なことがあるのです。現代の躰も基本は変わりません。

躰をする過程で、ときには厳しく、ときにはこの上なく優しく、まさに手を取り足を取りながら、子どもは親のぬくもりを肌で感じ、会話や体験を通して人や物への思いやりを心深く教え込まれるのです。人と人とのコミュニケーションの原点がここにあります。

子どもが成長していく過程では、実に様々な経験をしますが、その経験の一つ一つに家庭での躰が生きてきます。

家庭での躰は、やがて成人し社会で活躍するようになって生きてきます。躰の一つ一つに家庭の温かさを感じ、心のふるさとを感じ取れる貴重な思い出にもなるのです。

躰という字は、身が美しいと書きます。また、仕方を身に付ける「仕付け」とも書きます。「躰はまず形から入れ」との先人の教えを理解し、形ができあがるまで何度でも何度でも教え込まなければいけないと思います。教え込む過程で、やがてそこに“人に対する思いやり”などの心が育ちます。

また、たとえ子どもでも、人に対する社会の評価は、多くの場合“躰ができているかないか”で始まります。基本的な生活習慣といってもいいでしょう。

学校での躰は、規則を守らせ、規範意識を育てるところにあります。集団生活の中で自分がどう動いて、生活していくのかを教えるのです。学校生活は本物の社会に出る前の、小さな社会での体験活動です。生きる力が育つところです。家庭とは比較にならない多くの人たちの中で、泣いたり、笑ったり、怒ったり、人の痛みを知ったりと、多くのことを学びます。ここで、家庭での躰が試されるというわけです。

もし、学校での友だち付き合い等、コミュニケーションがうまくできないときには、ご家庭の躰の内容とその過程を振り返ってみることも時には必要です。解決の糸口が見つかるかもしれません。そのときには、学校とともに解決に当たしましょう。



あいさつキャンペーンの様子



生活朝会の様子